

ごあいさつ

日頃より皆様のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

私、このたび、八日市屋敏雄取締役社長を引継ぎ、業務の統括を行なうことになりました。

国内の畜産情勢が多角的に困難な状況のなか、衛生検査を主体として事業を推進した前任者の意志を引継ぎ、畜産関係の方々により貢献できるよう努力していく所存でございます。

前任者同様、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

エス・エム・シー株式会社

代表取締役 豊 浦 雅 次

候補豚における日本脳炎の浸潤調査

繁殖性の向上を阻害するものは産前産後の疾病であり、中でも流産や妊娠中の胎児の死滅損耗があります。そのうち感染性の原因で最も影響を与えるものはウイルス感染であり、とりわけ日本脳炎（以下JE）はその代表とされます。

今回はJE対策の指標になればと思い大型農場の候補豚にスポットをあてたJEの浸潤調査をまとめてみました。

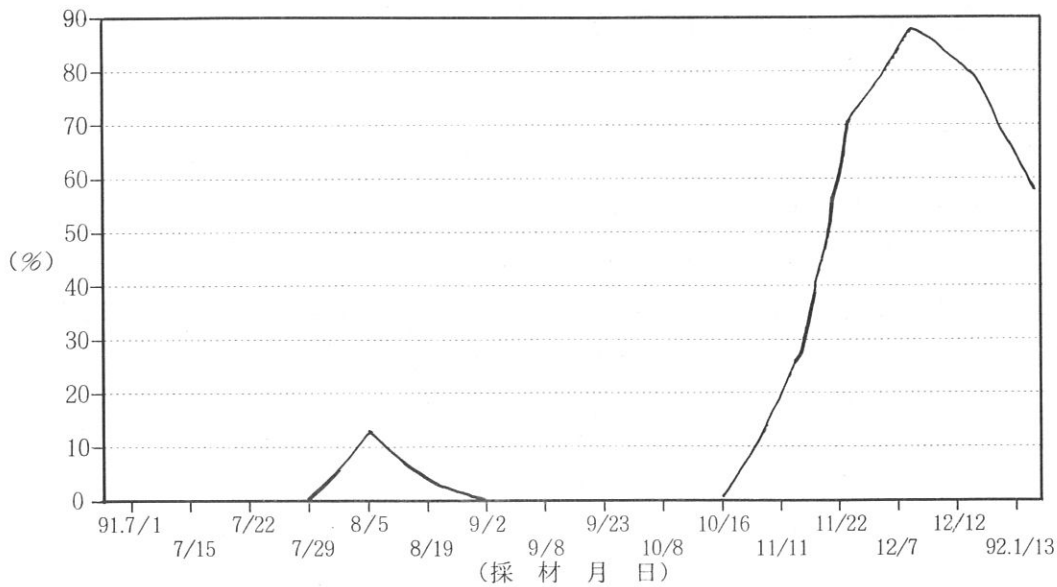
(表1) 調査及び検査方法

養 豚 場	群馬県内大型農場
調 査 期 間	'91. 7. 1 ~ '92. 1. 13
対 象 豚	候補豚全頭（約6ヶ月令）
抗 体 検 査	H I（赤血球凝集抑制試験）

7月以前の抗体価は過去に何度か調べ陰性であることは確認しています。

(図1)

N農場候補豚JEV陽性率(≥40)
(’91.7.1～’92.1.13)



JEのHIの判定は20倍以上を陽性としますが、明らかな陽転ですと40倍以上に、ピークでは80倍以上に集中することから実際には20倍は非特異反応の可能性も考えられます。

ここでは40倍以上を陽性として集計しました。

11/11からの大きな山で明らかな陽転が確認できました。10/16に20倍がいくつか出現していますが、この場合、全体の推移から抗体が上昇し始めたこととみて陽転は10/16採血分からと考えて良いと思います。抗体価のピークは12/7採血分でした。

<まとめ>

抗体検査より感染時期は9月下旬～10月中旬と推察され、抗体価のピークは感染後2カ月後くらいでした。調査前は蚊の発生時期と比例して抗体が上昇すると考えていましたが、蚊の発生ピークが終わった秋口に抗体の上昇が見られました。

受胎率の向上、正常分娩をめざすには妊娠中の初感染を考えてワクチネーション時期を選択する必要があります。従来より言われているようにJEの感染時期が以外に遅いことが今回の調査で明確になりました。

冬場でも異常産がみられることを考えますと、7月～10月種付分のワクチネーションは必須であると再確認させられました。(原田)